

令和4年度 園評価書

園番号 48 園名 高部中央こども園

I 経営の重点に関わること

評価段階 (A:よくできている B:概ねできている、C:あまりできていない、D:できていない)

1 教育・保育目標	2 重点目標	評価指標	園説明	自己評価	関係者評価	園関係者評価委員会から	改善策(来年度の具体的な取組目標等)
心豊かで たくましい子	これが好き ～とことん やってみよう～	・「やってみたい」と思える遊び出しの環境から遊びを深めるための環境へと繋げるための援助を行っている	毎週職員が集まり、次週の遊びの展開や援助方法を検討している。自然物を散歩で収穫するなどして、子ども達の興味を引き出し、それと合わせた素材を用意し遊び出せる環境を作っている。すぐに遊び出せるよう事前に素材や用具を用意する等の工夫をし、タイミングを逃さないようにしている	A	A	どんぐり等の自然物がいつもたくさん遊びに取り入れられて良いと思う。栽培も含めて旬のものが目で確かめられる工夫がされていると思う。	遊び出しの環境から更に子ども達の興味を引き出すために子どもも見取りをし、環境を工夫してきたことで、じっくり遊ぶ姿が見られるようになった。来年度は、子ども自ら考えたり試したりし、思いを伝えあいながら遊びを広げていけるような関わりをしていきたいと考えている。引き続き年齢の押さえを行うとともに、自然物を含めた教材、玩具も工夫していきたい。
		・子どもの姿や思いの見取りを丁寧にを行い、遊びの楽しさに共感している	子どもと一緒に遊び込みながら、「この遊びは何が楽しいのか」「繰り返す遊びはどうか」「等子ども」を見取るようにした。今日の遊びを振り返り、幼児組は一緒に話し合うことで思いを丁寧に捉えるようにしている	A	A	遊びの工夫を感じる。園自体、どのクラスからも園庭が生かせる作りになっているので、その良さを更に生かしてやるような環境作りが出来ると思う。職員が「こままでいい」満足することなく「もっとこうしていきたい」という意欲を持って取り組んでいるのを感じる。	
		・子ども達が自分たちの考えで、工夫しながらじっくり繰り返し遊ぶ姿が見られる	異年齢で遊ぶ機会が良い刺激となり、真似をする中で自分なりに考えて遊ぶうとする姿が見られてきた。可動遊具や可塑性のあるものに加え、園周辺の自然物を取り入れることで更に遊びへの興味が増した。今後も素材や環境の工夫を行っていきたい。	B	A	正月遊びも年齢に合わせて遊べる工夫がされていると思う。	

II 各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標					
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・発達を押さえをし、それぞれの年齢で発達に必要な遊びが経験できるよう保育教諭が意識を持ち関わっていく	個々の育ちや家庭環境に配慮しながら発達に必要な遊びが出来るようにしている。虹会や公開保育を経て、経験させたいことや押さえたいポイントが明確となりそれらを意識して保育している	A	A	子どものことを主に考え、職員が笑顔で保育が出来ている。虹会が定着して来ているので、話し合うことで職員の団結や充実感を感じるので、これからも続けていくと良いと思う。	重点目標、研修テーマに沿った年齢での発達を押さえをし、それぞれの年齢で経験させたい遊びや活動は何かを話し合い工夫し関わっていく。
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	・動と静のバランスに配慮した無理のない活動を計画し、年齢発達に合わせた生活リズムを確立する	年齢や発達、個々の保育時間に配慮しながら、戸外遊びや室内遊びのバランス、活動内容を計画し行えるようにしている。早番、遅番にかかる子どもは長時間の保育になるのでゆったり安心して過ごすことができるよう工夫している。	B	A	季節や子どもの様子に合わせた面白いもの、玩具、遊具が用意されていて、子ども達がそれらを使い伸び伸びと遊んでいるので、とても環境の工夫を感じる。地域性を考え、園周辺の自然を取り入れた保育を続けて欲しいと思う。	年齢や発達に応じた活動を考えてバランスよく関わっていき生活リズムを確立していくが、それぞれの保育時間や成長も考慮しながら、柔軟に対応していくように配慮したい。
	(3)環境を通して行う教育及び保育	・身近な自然物を効果的に遊びの環境として活用したり、可動遊具等も工夫し取り入れていく	園内にある花や落ち葉などの自然物を使ったり、園周辺に散歩に行き自然物を集めたりして遊びに取り入れている。可動遊具はマルチバナやタイヤ、コンパネ等を組み合わせて遊んでいる。可動遊具の教材研究を意識し取り入れる工夫をしているので、更に職員で共有を進めていきたい。	B	A	季節や子どもの様子に合わせた面白いもの、玩具、遊具が用意されていて、子ども達がそれらを使い伸び伸びと遊んでいるので、とても環境の工夫を感じる。地域性を考え、園周辺の自然を取り入れた保育を続けて欲しいと思う。	身近な自然物や素材においてどのような遊びが展開できるか、地域の自然を取り入れ計画的な教育・保育を意識していきたい。園内に植える花等も先を見通し計画していき、可動遊具も含めて教材研究を行っていく。
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・保育教諭の危険に対する意識と子どもが自ら危険を回避できる体制が整うよう様々な想定した訓練を行っている	実際の場面を想定したより実践的な訓練を行うために、警察署の協力のもと訓練を行った。外部の機関と連携して訓練を行うことで自分達だけでは気付かなかった新たな課題が見え、子ども達の危険に対する意識も高まったので、今後の訓練の対策に生かしていきたい。ヒヤリハットも引き続き行い、職員間で話し合い園内の危険個所の改善につなげている	A	B		訓練を行ったうえで気づいた課題を改善していけるよう次の訓練を組み立てていく。子どもの危険に対する意識が高まっていくような内容を計画し、外部とも連携をしていく。職員自身の危険に対する意識や積極的に行動する姿に繋げたい。
		・食育の日の内容を設定し、お弁当給食や栽培、クッキングなどそれぞれのテーマに沿った食への活動を年齢に合わせて進めていく	食育の日のテーマと栽培物が重なり、米やさつまいも等の収穫を実体験することでより“食”への関心を高められたと思う。栽培をしていないクラスも他クラスと連携を取りながら一緒に収穫したり、クッキングしたものを食べる機会が設けられ良かった。月のテーマが乳児では内容が難しいものもあるため、来年度のテーマの見直しが必要である。	A	A	保護者アンケートの数字を見ると様々な訓練の状況を保護者が理解していない。それがもつたいないことだと思うので、保護者に知らせていく方法を考えていくと良いと思う。ドキュメンテーションなどで写真を利用しているが、目で見て分かりやすいので、積極的に取り入れると良いと思う。	食育の日にテーマを決めて取り組んだことで、年齢や発達に応じた話や活動が出来、子ども達の食への興味に繋がった。月のテーマが年齢によっては難しい時もあったので、テーマに応じての取り組みは幼児を主にし、乳児は発達に合った活動を考え取り組むようにしていく。
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	・ばんだ会議での内容を職員が共有できるように工夫し、共通理解のもと安定した関わりが出来るよう連携を図っていく	全職員が会議での内容を周知出来るようブース会議や回覧で発信したが、発信力が弱いと感じる場合もあり、周知しきれなかった。また、配慮が必要な子どもに対して全職員が安定した関わりをしていけるよう、より細かい部分まで子どもの様子を伝えたり、実際に会議等に参加してもらうことで共通理解が深まるであろうと考えたが、十分に実現できなかった。次年度はそれらの体制を改善していきたい	B	B		担当以外の職員もばんだの会やばんだ会議に参加できるように事前に計画し、会の内容を体験することで支援児の関わり方やその子の発達を知る機会となるようにしていく。
		・虹会の定着を図り、保育の悩みや改善点を話し合える場とし、誰もが意見を言いやすいやり方を工夫していく	毎週の虹会の場で次週の遊び構想を話し合うことが定着し、職員が各クラスの様子や遊びを把握できるようになった。合わせて園全体としての園庭の使用構想についても話し合える場となってきており、話し合いは活発になってきた。一方で参加職員に偏りが出てしまふ為、誰もが参加できる体制を進めていく必要がある。	A	A	学校評議員会に出席し、説明を聞く中で、園の様々な工夫が分かった。会に出席しなければ保育の意図が分からないこともあるので、保護者へ様々な場面で伝えていき、理解し合えたらと思う。	虹会での話し合いが園庭での使い方や園の遊びの共有に繋がっているのでも引き続き行っていく。クラスリーダーだけでなく、様々な立場の職員が参加できる会になるよう体制を考えていきたい。
4 特別支援教育・保育	(1)支援体制づくりの推進	・研修テーマの手立てとして、具体的に写真等を活用し、子どもの遊びや思いへの見取りが十分できるよう学びを深めていく	写真を用いた研修方法が定着し、子どもの遊びや思いの見取りに焦点を当て深く考えられるようになっている。職員の様々な立場に関わらず研修に参加できるようにし、話し合うテーマを設定していることで誰でも意見が言いやすくなった。多くの職員の保育観を知る機会となり学びに繋がられている	A	A		写真を用いた研修方法が学びに繋がったので、引き続き取り入れながら、環境や子どもの見取りについて考えていく。また保育教諭の声かけや目線などの関わりについても深く考えていきたい。
		・子どもの発達、興味関心に合わせた環境構成が出来た。園内研修での学びを生かして環境構成に取り組んだり、虹会で環境について話し合ったりしながら工夫している。子どもの遊びの姿に応じて遊びや環境を再構成していけると良い	子どもの発達、興味関心に合わせた環境構成が出来た。園内研修での学びを生かして環境構成に取り組んだり、虹会で環境について話し合ったりしながら工夫している。子どもの遊びの姿に応じて遊びや環境を再構成していけると良い	B	B	職員の連携は様々な職員がいて、勤務体制や意識も様々なので、統一していくのは難しいが、欲張らず様々な意見をもらうという気持ちで取り組んでいくと良いと思う。皆で集まるのは難しいので、共有できる場を持つと良いと思う。	虹会で保育環境について話し合うことで職員同士の共有が出来ている。来年度は子どもが考えたり試したり出来るような環境を考えていきたいと思う。
5 組織運営	(1)組織体制の充実	・園内にドキュメンテーションやクラスボードを掲示し、内容を工夫しながら子どもの遊ぶ姿や成長を伝えていく	子どもの遊びの姿や保育教諭の願い、保育の意図が伝わるよう意識しながらドキュメンテーションの作成を行い、保護者と子どもの姿を共有している。クラスボードも同じように保育の意図が伝わるよう工夫したが、それらが保護者に伝わり、子どもの成長を感じ取ってもらえたか疑問が残る	B	B		ドキュメンテーションの工夫で保護者に園での様子に関心を持ってもらえるようになった。今後に加えて個々の面談を通し直接職員自らの言葉で伝えるなど信頼関係作りを意識し、保育の意図が伝えられるようにしていく。
		・公開保育や公開授業への参加など出来る限り行い、それぞれの様子を伝え情報共有をしながら教育・保育の円滑な接続に繋げていく	公開保育、公開授業、六中学区協議会などで近隣の園と学校の職員と共に地域の子どもの情報を共有している。参加しなかった職員にも口頭や書面で共有している。コロナ禍でも出来る子ども同士の交流を考えていきたい。年長児が学校の施設を見学させてもらい就学に向けて期待が持てるよう計画した。	A	A	公開保育や公開授業、学校探検など今までの取り組みがなされていく園の努力を感じる。地域との交流も出来ることを今後も続けていって欲しいと思う。	公開保育や公開授業の参加や学校探検、また、近隣園の年長児も交流を行った。子ども同士の交流が難しい中、戸外での活動にしたりと交流の仕方を見学することで実現できているので、来年度も取り組み方を工夫していきたい。
6 研 修	(1)研修体制の充実	・子どもの発達、興味関心に合わせた場所や教材を探り、提供することで一人一人がじっくり遊び込める環境を整えていく	子どもの発達、興味関心に合わせた環境構成が出来た。園内研修での学びを生かして環境構成に取り組んだり、虹会で環境について話し合ったりしながら工夫している。子どもの遊びの姿に応じて遊びや環境を再構成していけると良い	B	B		コロナ禍でも少人数での参加など方法を工夫し、地域の行事に参加し交流が持てるようになる
		・研修テーマの手立てとして、具体的に写真等を活用し、子どもの遊びや思いへの見取りが十分できるよう学びを深めていく	写真を用いた研修方法が定着し、子どもの遊びや思いの見取りに焦点を当て深く考えられるようになっている。職員の様々な立場に関わらず研修に参加できるようにし、話し合うテーマを設定していることで誰でも意見が言いやすくなった。多くの職員の保育観を知る機会となり学びに繋がられている	A	A		コロナ禍でも少人数での参加など方法を工夫し、地域の行事に参加し交流が持てるようになる
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	・園内にドキュメンテーションやクラスボードを掲示し、内容を工夫しながら子どもの遊ぶ姿や成長を伝えていく	子どもの発達、興味関心に合わせた環境構成が出来た。園内研修での学びを生かして環境構成に取り組んだり、虹会で環境について話し合ったりしながら工夫している。子どもの遊びの姿に応じて遊びや環境を再構成していけると良い	B	B		コロナ禍でも少人数での参加など方法を工夫し、地域の行事に参加し交流が持てるようになる
		・子どもの発達、興味関心に合わせた場所や教材を探り、提供することで一人一人がじっくり遊び込める環境を整えていく	子どもの発達、興味関心に合わせた環境構成が出来た。園内研修での学びを生かして環境構成に取り組んだり、虹会で環境について話し合ったりしながら工夫している。子どもの遊びの姿に応じて遊びや環境を再構成していけると良い	B	B		コロナ禍でも少人数での参加など方法を工夫し、地域の行事に参加し交流が持てるようになる
8 家庭との連携・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	・園内にドキュメンテーションやクラスボードを掲示し、内容を工夫しながら子どもの遊ぶ姿や成長を伝えていく	子どもの発達、興味関心に合わせた環境構成が出来た。園内研修での学びを生かして環境構成に取り組んだり、虹会で環境について話し合ったりしながら工夫している。子どもの遊びの姿に応じて遊びや環境を再構成していけると良い	B	B		コロナ禍でも少人数での参加など方法を工夫し、地域の行事に参加し交流が持てるようになる
		・子どもの発達、興味関心に合わせた場所や教材を探り、提供することで一人一人がじっくり遊び込める環境を整えていく	子どもの発達、興味関心に合わせた環境構成が出来た。園内研修での学びを生かして環境構成に取り組んだり、虹会で環境について話し合ったりしながら工夫している。子どもの遊びの姿に応じて遊びや環境を再構成していけると良い	B	B		コロナ禍でも少人数での参加など方法を工夫し、地域の行事に参加し交流が持てるようになる
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	・公開保育や公開授業への参加など出来る限り行い、それぞれの様子を伝え情報共有をしながら教育・保育の円滑な接続に繋げていく	公開保育、公開授業、六中学区協議会などで近隣の園と学校の職員と共に地域の子どもの情報を共有している。参加しなかった職員にも口頭や書面で共有している。コロナ禍でも出来る子ども同士の交流を考えていきたい。年長児が学校の施設を見学させてもらい就学に向けて期待が持てるよう計画した。	A	A	公開保育や公開授業、学校探検など今までの取り組みがなされていく園の努力を感じる。地域との交流も出来ることを今後も続けていって欲しいと思う。	公開保育や公開授業の参加や学校探検、また、近隣園の年長児も交流を行った。子ども同士の交流が難しい中、戸外での活動にしたりと交流の仕方を見学することで実現できているので、来年度も取り組み方を工夫していきたい。
		・コロナ禍でも少人数での参加など方法を工夫し、地域の行事に参加し交流が持てるようになる	コロナ禍でも少人数での参加など方法を工夫し、地域の行事に参加し交流が持てるようになる	A	A		コロナ禍でも少人数での参加など方法を工夫し、地域の行事に参加し交流が持てるようになる
10 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	・公開保育や公開授業への参加など出来る限り行い、それぞれの様子を伝え情報共有をしながら教育・保育の円滑な接続に繋げていく	公開保育、公開授業、六中学区協議会などで近隣の園と学校の職員と共に地域の子どもの情報を共有している。参加しなかった職員にも口頭や書面で共有している。コロナ禍でも出来る子ども同士の交流を考えていきたい。年長児が学校の施設を見学させてもらい就学に向けて期待が持てるよう計画した。	A	A	公開保育や公開授業、学校探検など今までの取り組みがなされていく園の努力を感じる。地域との交流も出来ることを今後も続けていって欲しいと思う。	公開保育や公開授業の参加や学校探検、また、近隣園の年長児も交流を行った。子ども同士の交流が難しい中、戸外での活動にしたりと交流の仕方を見学することで実現できているので、来年度も取り組み方を工夫していきたい。
		・コロナ禍でも少人数での参加など方法を工夫し、地域の行事に参加し交流が持てるようになる	コロナ禍でも少人数での参加など方法を工夫し、地域の行事に参加し交流が持てるようになる	A	A		コロナ禍でも少人数での参加など方法を工夫し、地域の行事に参加し交流が持てるようになる